

平成26年度 藤沢市議会改革検討会 行政視察報告書

1 調査期間

平成26年11月13日（木）～11月14日（金）

2 視察都市及び視察事項

期日	視察都市	視察事項
11月13日（木）	高山市	議会改革の取り組みについて
11月14日（金）	可児市	議会改革の取り組みについて

3 視察者

松下 賢一郎（座長）

柳沢 潤次 ・ 原田 伴子 ・ 市川 和広 ・ 脇 礼子・
永井 譲 ・ 井上 裕介 ・ 有賀 正義 ・ 吉田 淳基・
加藤 一 ・ 佐賀 和樹（副議長）

4 視察事項の概要

[高山市]

② 人口及び面積 92,365人 2177.67km²

② 平成26年度一般会計予算 45,400,000千円

③ 視察事項の概要

高山市議会では、より良い市政づくりには、市民と議会、行政と議会、そして議員同士が積極的に対話し、議論を深めることが欠かせないとの認識に基づき、市民との意見交換会、議員同士で行う政策討論会等の実施によって、議論を行う機会を大幅に拡充するとともに、議員間の自由討議、市長等への反問権の付与等によって、議論を深めるための手法を充実させている。

「政策提言による議会機能の強化」

地域主権の進展等により、執行機関が独自に策定する政策の増加が見込まれる中で、予算編成権が市長にあること、執行部に比べ政策立案のためのスタッフが圧倒的に手薄であることなどから、政策立案に重点を置いた議会活動ではなく、組織的な「政策提言」を積極的に行うことを通じて強力な「監視型議会」を目指すとしている。

「政策提言」の内容を高め説得力を持たせるため、提言づくりにあたっては、常任委員会の所管事務調査を活用することとし、加えて、

常任委員会が市民意見交換会、議員研修会を自由に活用できる仕組みを整えている。また、政策提言の際には、「目的・背景・基本的方向・財政見通し」の4点を明らかにすることとし、政策提言に政治的効果を持たせるためにも、政策提言を市長に提出するのは、原則として全議員参加で行う「政策討論会」の場において、全会一致であることを条件としている。

「政策提言に係る主な取り組み」

- ・閉会中の継続審査を積極的且つ計画的に実施するため、委員会開催を定例化している。また、任期を1年から2年としている。
- ・委員会調査の最終目標を「政策提言」とすることで、活動目的を明確にした。
- ・委員会の会議は、議員間討議を中心に行っている。

「市民意見交換会の開催」

議員が少なくなり、地域の声が届きにくくなるとの不安に応えるべく、小学校区を単位とした地域別の「市民意見交換会」を行っている。また、常任委員会の調査研究を深めるため、各種団体等を対象とした分野別の市民意見交換会も開催している。

これらの意見交換会は、いずれも政策提言に向けた活動の一環として位置づけ、「政策提言」という形で市民の声を反映させることとしている。

「政策討論会」

・各常任委員会での政策提言の内容について全議員で討議をし、政策提言実施の合意形成を図る。

開催実績としては、平成25年度は総合計画に関する特別委員会において協議されたため未実施。平成24年度については、以下の課題について議論をした結果、(2)及び(5)が全会一致で政策提言が市長に提出されている。

- (1) 「高山市子ども条例(仮称)」の制定について(福祉保健委員会提出)
- (2) 「高山市観光振興ビジョン(仮称)」の策定について
- (3) 「スマートフォンに対応した情報提供システムのさらなる活用と魅力ある情報発信」について
- (4) 「地産地消の取り組み」について(以上 文教経済委員会提出)
- (5) 「公共物(道路、水路、橋梁、水道管など)の効果的な運用」について(基盤整備委員会提出)

尚、政策提言を行った事項については、執行状況をチェックすることを条例に規定しているが、執行機関からの具体的な回答等は得られていない状況にあった。

[可児市]

- ① 人口及び面積 100,877人 87.60km²
- ② 平成26年度一般会計予算 27,720,000千円
- ③ 視察事項の概要

「予算決算審査からの政策提言・提案などの取り組み」

予算決算委員会は議長・監査委員を除く全議員(20人)で構成されており、特に可児市議会では、次年度予算に反映させる事を目的に、決算審査に重きを置いており、審査については、決算説明(1から2回)を受けた後、決算質疑(3~5回)では、執行部に対する質疑を行い、その後の自由討議で出た意見を集約し、ここでの意見等を受けて、各分科会で議員間の自由討議による「提言案の検討」を行い、付帯決議や提言内容をまとめ、最終の決算審査(全議員参加)で、再度、委員相互の自由討議を行いながら、意見の相違や共通点を確認し、全会一致されたものを「政策提言」として市長に提出している。

尚、新年度予算の審査において、予算説明の際に「提言反映結果報告」が行われており、加えて、決算審査においても「提言対応結果報告」がなされている。

「ICTを活用した委員会運営」

無料のグループウェア(ビジネス用 SNS)である「サイボウズライブ」を平成23年9月から導入しており、インターネット上で迅速に資料確認ができ、資料内容の改善も事前に行うことができるなど、これにより議員間及び、議員と事務局の情報交換が円滑に行われている。

「議会の情報発信の取り組み」

情報発信を積極的に行っています。具体的には、「議会だよりのフルカラー化」をはじめ、「グーグルカレンダー」を活用した議会活動の公表、「議会報告会」の開催にあたり、FM ラジオ放送に議会報告会実施会議の正副座長が出演した告知活動、また、庁内及び全連絡所(14カ所)、市内公共施設にポスター掲示するなどして市民周知に取り組んでいる。

「高等学校へのキャリア教育支援」

議会がパイプ役となり若い世代(高校生)と地域の様々な課題に取

り組んでいる大人が関わる場を設けるといふ、全国初の取り組みとして、可児高等学校地域課題解決型キャリア教育支援事業に取り組んでいる。

「地域課題懇談会の開催」

可児市議会では、平成26年2月に行った高校生議会において可児高等学校の生徒から「地域課題に若い世代が関わる機会を設けることについての意見書」を受け取っており、それに基づいて、市議会、市医師会、そして可児高等学校と連携した「可児市議会地域課題懇談会」を行っており、可児医師会長の講演を受け、医療と健康をテーマに、医師、保健師、議員、可児高等学校生徒によるグループ討議を経て、最後にグループ討論結果を発表している。